

## 新造フェリー「フェリーたかちほ」に乗る

2022. 5. 14

日本クルーズ&フェリー学会事務局長 池田良穂

4月15日、宮崎カーフェリーの新造カーフェリー「フェリーたかちほ」が就航して、16日朝に処女航海時の姿を明石海峡で撮影しましたが、ついに乗船することができました。個人的に乗船しようと思っていたのですが、本学会会長の赤井先生が主催するスマートクルーズアカデミーと日本クルーズ活性化会議の共催で、同船の往復乗船と、船上での講演会、神戸港の説明および宮崎県の港湾の見学を行う研修クルーズが行われることが分かり、これに参加させていただくこととなった。

宮崎カーフェリーは、周知のとおり東京湾横断カーフェリー航路を運航し、その後長距離フェリーに進出して一世を風靡した日本カー・フェリーをルーツとしており、1971年から川崎～日向航路、神戸～日向航路(当初は宮崎カーフェリーとして運航し、その後日本カーフェリーに統合)、1972年に大阪～日向航路も開設して、3航路7隻の6000総トンクラスのカーフェリーを投入しました。1974年には川崎～日向航路に25.6ノットの高速カーフェリー「高千穂丸」姉妹を投入して2隻でのデイリーサービスを開始。さらに広島航路も開設しました。

1990年には累積赤字解消のためにシーコムに売却され、シーコムフェリーとして再出発しましたが、1992年にはシーコムが破産して、日本長期信用銀行によってマリンエクスプレスとして再生されました。

その後、紆余曲折がありましたが、現在の宮崎カーフェリーは2018年に地元自治体と地域経済活性化支援機構等の出資による3代目の法人にあたります。宮崎県側の港は日向港から宮崎港に、関西側の港は大阪港から神戸港に変わっています。

さて、1996年に建造された「みやざきエクスプレス」1997年に建造された「おおさかエクスプレス」(発着港が神戸に変わった時に「こうべエクスプレス」と改名)の2隻の11000総トン級船が長らく就航していましたが老朽化が進んだため、新造船の登場となりました。

建造は内海造船の向島工場で、総トン数は14000総トン級となり、全長も170mから196mに大きくなりました。トラックの搭載数は130台から163台に増えています。これは宮崎発のトラックのフェリー利用率が、2005年の8%から2015年には34%に増加してモーダルシフトが進み、上り便でのトラックの積み残しが2018年度で約6000台にのぼることに対応するものとのことです。

当日乗船すると、学会員で、宮崎カーフェリーにお勤めの木村さんが船内を案内してくれました。この船の内装デザインは、学会員だった故笠井さんによるもので、完成を見ずに急逝したのは本当に残念とのことでした。随所に笠井さんらしいデザインがありますので、ぜひ乗船して楽しんでみてください。



スマートクルーズアカデミーの乗船会のオープニングと神戸港の説明のあった神戸ポートオアシスの会議室から停泊する「フェリーたかちほ」を撮影できました。



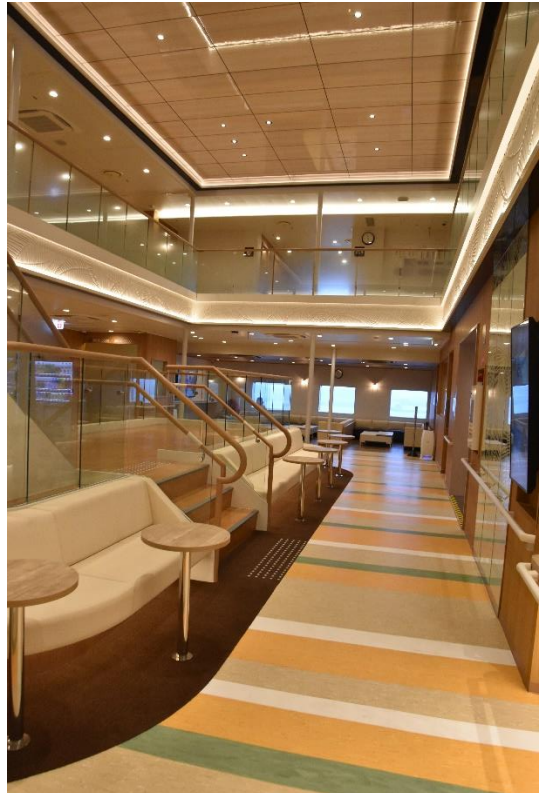
エスカレーターで登って旅客スペースに上がると、サーフィンボードが収納できるロッカーが並んでいました。



2層吹き抜けのロビーには、イベントスペースと名付けられた広い踊り場があり、演奏会なども開催できるとか。



ロビーの踊り場を下から見ると、こんな感じです。



ロビーの踊り場の周りにも椅子と丸テーブルが配置されていました。



インサイドプロムナードの展望スペースです。



最前部には前方が見渡せる隠れ家のような展望スペースが4つありました。



レストランの入口の前にある談笑スペース。



大型のテレビを設置したイベントラウンジ



2段ベッドの並ぶドミトリースペースは、船体中心に集中して配置されています。



トイレも完備したファーストには、2人、4人部屋がありました。帰路に利用した4人部屋で、窓際に和室・テレビスペースがありました。



上のベッドには梯子ではなく、階段で上がれます。



キャビンに用意されていたアメニティグッズは、環境に配慮された布製の袋に入り、プラスチックの使用料を減らしたものでした。



レストランのバイキング料理は、宮崎産の食材を使った美味しい物でした。夕食は 1600 円、朝食は 600 円です。



レストランのテーブル席です。



筆者の 2 日目の夕食のプレートです。



子供用プレイスペースです。



ペットルームの他、ペットと一緒に過ごせる客室もありました。



ファンネルには、日本カー・フェリーの最初の「ぶーげんぴりあ」と「はいびすかす」の煙突に輝いていた金色のとびが復活していました。煙突の色は赤から青に変わっていますが。



2日目の朝、豊後水道から南下するPCCと出会いました。



宮崎では豪雨でしたが、復路の朝には青空ものぞく中、紀淡海峡を北上しました。



志布志から大阪南港に向かう「さんふらわあさつま」です。背景は沼島です。しばらく並行して走っていましたが、友が島水道の手前で「フェリーたちかほ」が減速して、左に転舵して「さんふらわあさつま」の船尾をかわしました。



時々、低い雲があり、船影が霞んでいます。手前の船は宮古水産高校の漁業実習船「りあす丸」、奥が「さんふらわあさつま」です。背景は淡路島です。



「りあす丸」です。



「さんふらわあさつま」は友が島水道を抜けると、大きく右に舵を切り、大阪港へと向かいました。「フェリーたちかほ」は真つすぐに神戸を目指して北上しました。



定刻7時半には神戸のフェリーターミナルに着岸しました。